

経営比較分析表（令和5年度決算）

佐賀県 鹿島市

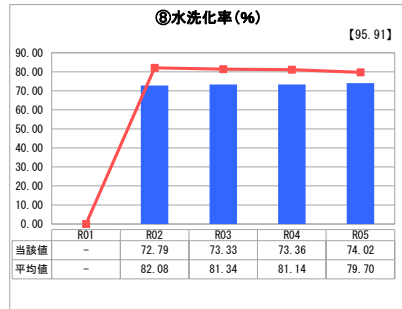
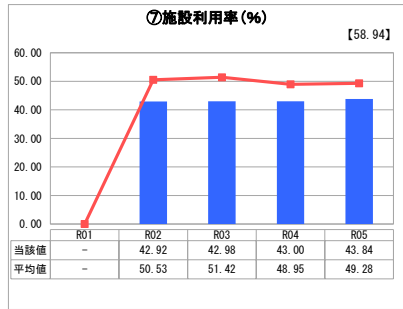
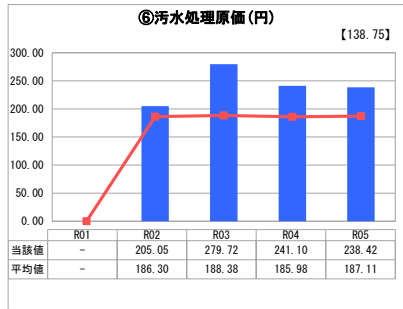
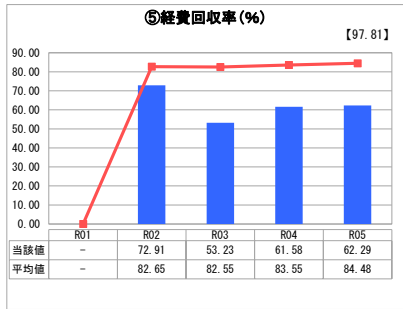
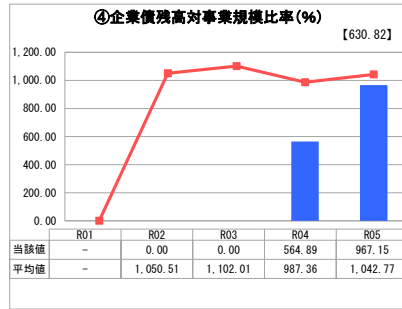
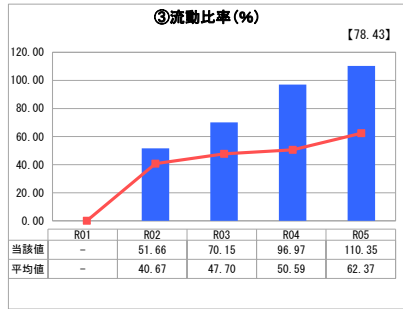
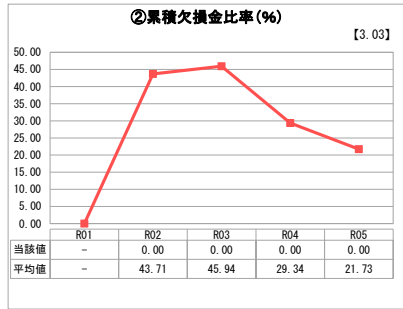
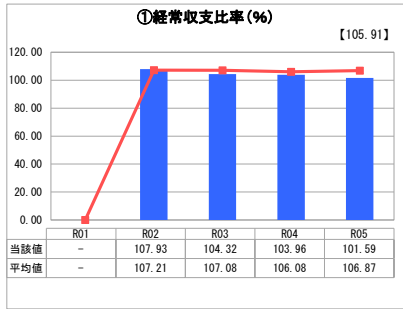
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Co2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金(円)
-	58.42	45.21	90.26	2,640

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
27,596	112.12	246.13
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
12,392	3.77	3,287.00

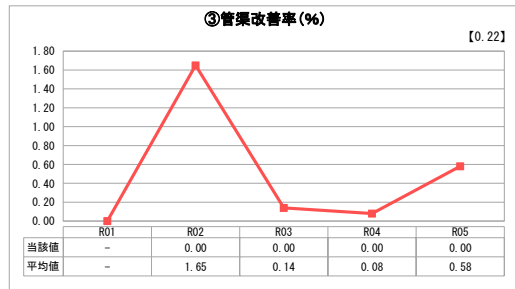
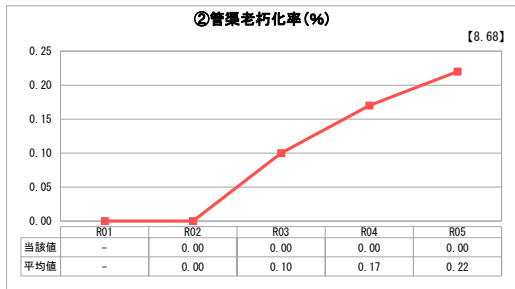
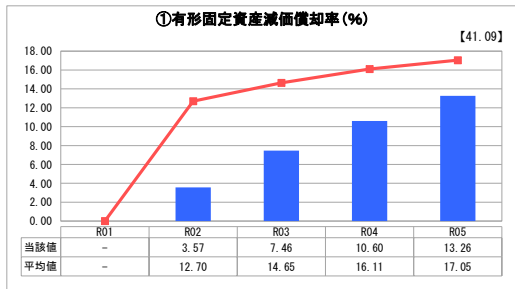
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①令和2年度の法適用以降、経常収支比率100%以上を維持し、欠損金も発生していないが、これは一般会計からの基準外繰入金によるものである。
 ②法適用以降、流動比率は前年度比増を続け、令和5年度決算で初めて100%を超えることができた。
 ③企業債残高対事業規模比率は、類似団体平均より下回っており、今後も投資規模や使用料水準が適切なものであるか検証しながら経営を行っていく必要がある。
 ④接続者数の増加に伴い、下水道使用料収益自体は増加しているが、汚水処理原価が全国平均、類似団体平均と比較して高い状況となっており、経費回収率が平均を下回る状況が続いている。
 ⑤⑧施設利用率、水洗化率ともに平均を下回っている。水洗化率を向上させ、施設利用率を上昇させていく必要がある。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率が平均より低い数値となっているが、これは法適用からまだ4年しか経過していないことによる。今後、経年とともに率は上昇していく見込みである。
 ②③当市の公共下水道は、平成6年から汚水事業の供用を開始しており、汚水管渠で法定耐用年数を超えたものはないが、終末処理場である浄化センターや、雨水ポンプ場などの施設・機械・電気設備の老朽化が進行しており、ストックマネジメント計画に基づき、補助金を最大限に活用しながら更新・長寿命化を行っている。

全体総括

令和5年度に見直した「経営戦略」の投資・財政計画将来シミュレーションで、今後、当市公共下水道事業の経営環境は厳しさを増していくことが示されている。このため、令和6年2月に下水道事業審議会に「下水道使用料の適正化」について諮問を行った。令和6年度に答申があり、令和7年4月使用分から使用料を改定することとしており、今後、基準外繰入金の削減等に取り組み、経営の健全化を図っていくこととしている。
 また、当市下水道事業は、処理場や雨水ポンプ場などの大型施設を保有しており、ストックマネジメント計画に基づき更新・長寿命化を行っているところであるが、経営戦略の見直しもできたことから、今後は、経営戦略の方針も踏まえ、これまでに以上に施設の適正管理に努め、長期的に持続可能な下水道事業の運営を行っていく必要がある。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。